



なインパクトを与える科学的な発見や革新的な技術）支援の重要性や長期支援の必要性について説明いただいた。

信州大学の井須紀文氏と信州大学、ヴェルヌクリスタル(株)の田中厚志氏、手嶋勝弥氏には「大学発シーズ技術でシリアルマテリアルユニコーン創出へ」という題目で信州大学の技術シーズである“フラックス法”について技術内容を含めユニコーン（時価総額10億ドル以上の未上場ベンチャー企業）を目指すスタートアップについて執筆いただいた。

一方、ベンチャー&スタートアップのプレーヤーの視点から

京都大学の樋口雅一氏には「多孔性配位高分子（PCP/MOF）の商業化最新動向2025.11 — PCP/MOF 特化型スタートアップの台頭とその役割 —」として1990年代に学術研究として精力的に研究された新物質に関する概要および国内外のPCP/MOF 特化型スタートアップ、量産化技術や商業化事例を解説いただいた。折しも2025年のノーベル化学賞を受賞される北川進先生は選考委員会の伝達時の記者との質疑でご自身のスタートアップでMOFの実用化・商業化を進める旨をお話されていた。

(株) KNiT の西本拓磨氏には「AI 画像解析技術を活用したインフォマティクスへの新たな展開」という題目でAI 画像解析による最新技術でのさまざまなケーススタディーの紹介とインフォマティクスへの展開などを紹介いただいた。

室蘭工業大学の山中真也氏には「室工大発ベンチャー」という題目で畜産業界が抱えている課題解決にアカデミアの知見を異分野連携によってどのように貢献したかを紹介いただくとともに、大学発のベンチャー設立に至った経緯を含め解説いただいた。

(株) DENSE の若松知哉氏には「粉粒体プロセスをサイエンスベースで最適化」という題目で大阪大学発ベンチャーとして粉粒体シミュレーション技術を設立した背景や大学と産業界をつなぐスタートアップが担う役割について解説いただいた。

(株) illuminus の中村貴宏氏には「レーザー誘起還元法による完全固溶合金ナノ粒子の合成と産業応用に向けた高効率化の試み」という題目で東北大学の基礎研究を元に設立されたスタートアップの技術およびその基盤となる学術研究について紹介いただいた。

本特集の編集作業を通して感じられたことは企業や政府、さらに大学も、新しい風を吹かせ収益を上げる手段としてスタートアップを推進し、そこに期待するようになってきたということだ。考えようによって、これは悲しい事実とも思われる。しかし危機感を持たずに安定した産業の下で暮らしていた我々にとって、今は目を覚ましてやる気を起こすよいチャンスかもしれない。スタートアップに資金を出す政府も大企業も、アントレプレナーに日本の産業力復活の役割を丸投げするのではなく、現場を見て一緒にあって新規事業を育てていただくことを期待したい。